



水稲用除草剤

## ハードパンチDF



除草剤分類

14,2

農林水産省登録

第22620号

有効成分

カルフェントラゾンエチル・・・・・・・・・20.0%  
フルセトスルフロン・・・・・・・・・10.0%

性状

淡褐色水和性細粒

人畜毒性

普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）

有効年限

3年

包装

30g×10袋

## 特長

- ✓ 乾田直播の専用剤  
乾田直播栽培の入水前に使用できる茎葉処理除草剤です。

- ✓ 環境への負荷が小さい  
本剤は水生生物に対し、高い安全性が確認されています。  
また、10アール当りの有効成分投下量はフルセトスルフロンが3g、カルフェントラゾンエチルが6gと非常に低薬量で、減農薬栽培に適した除草剤です。

- ✓ 高葉齢ノビエにすぐれた効果  
雑草に茎葉散布することで、ノビエ5葉期まで高い除草効果を示します。稲よりもノビエの葉齢が進んでいる場合でも使用できます。

# 適用作物と使用方法

| 作物名  | 適用雑草名                                | 使用時期                                             | 10アール当り使用量 |       | 本剤の使用回数 | 使用方法                  |
|------|--------------------------------------|--------------------------------------------------|------------|-------|---------|-----------------------|
|      |                                      |                                                  | 薬量         | 希釈水量  |         |                       |
| 直播水稻 | ノビエ<br>タデ類<br>クサネム<br>アメリカセンダング<br>サ | 乾田直播の稲2葉期<br>～ノビエ5葉期（入<br>水前）<br>但し、収穫60日前<br>まで | 30g        | 100 ℓ | 2回以内    | 乾田状態で雑草茎葉<br>散布又は全面散布 |

【各有効成分を含む農薬の総使用回数】  
カルフェントラゾンエチル・・・2回以内、フルセトスルフロン・・・2回以内  
※本内容は2021年4月21日付の登録内容に基づいています。

## 効果・薬害等の注意事項

---

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。
- 本剤の使用時期は稲の2葉期からノビエの5葉期までなので、時期を失しないように散布すること。なお本剤は、乾田直播の乾田条件（入水前）で使用する  
こと。  
各雑草の散布適期は次の通り。  
タデ類・・・・・・・・・・3葉期まで  
クサネム・・・・・・・・・・4葉期まで  
アメリカセンダングサ・・・・・・・・1葉期まで
- 散布に当たっては、雑草茎葉にかかるよう、まきむらのないように均一に散布し、少なくとも2日間はそのままの状態を保ち、入水しないこと。
- 薬害が発生するおそれがあるので、以下の点に注意すること。
  - ・展着剤は加用しないこと。
  - ・重複散布をさけること。
  - ・軟弱徒長苗での使用をさけること。
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので、使用をさけること。
- 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 周辺作物に薬液が付着すると薬害を生じるので、散布液が飛散しないように注意すること。
- 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
- 本剤を散布した水田の田面水を他の作物に灌水しないこと。
- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- 散布に用いた器具類は、使用後直ちに洗浄し、他の用途に使用する場合は薬害の原因にならないように注意すること。また、散布器具および容器の洗浄水は河川などに流さないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

# 安全使用上の注意事項



- 誤飲、誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

## 魚毒性等

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 保管

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。